

2009年8月にテネシー州ナッシュビルで開かれたJ P F 音楽アワードには、163カ国から42,000枚以上のCD、560,000曲以上の応募があった。その中、**Goh Kurosawa** (黒沢豪)のオリジナル曲「ひとり」は、音楽史上最大規模のこのJ P F 音楽賞セレモニーのSolo Guitar部門にノミネートされ、Top 6入賞。さらに彼はこのイベントの最初の演奏者に選ばれ、豪の演奏は開幕を花火のように飾った。

幼稚園時代をアメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスで過ごした豪。クラシック・オーケストラ鑑賞を欠かさない両親が彼を初めてコンサートに連れていったのはセントルイスのシンフォニーホールだった。豪がピアノを習い始めたころのこと。彼は小・中・高校時代を前橋市で送り、前橋・高崎にやってくる様々な海外のオーケストラ公演に通っている。高校時代の三年間、豪は前橋高校ギター・マンドリン部に所属し、ギターを手にする。部長・編曲・指揮も担当。地域のマンドリン・フェスティバルで指揮を“すばらしい！”と讃えられ、特別指揮者賞を新設させた。指揮者を志していると多くの人が思った。

セントルイスのワシントン大学で学ぶため再び渡米。ワシントン大学芸術・科学学部で学ぶ中、豪はきれいな音を創るためギターとの長旅に出る、ギタリストになると決断。ワシントン大学の四年間、一般教養課程を含めクラシックギター、西洋音楽史と音楽理論を専攻。

その後、ロサンゼルスのカリフォルニア芸術大学大学院に進む。解放的なカリフォルニアの空の下、バルカン音楽など以前にも増して多様なジャンルの音楽・芸術・文化と出会い、彼の興味は広がる。この時代、ジャズの巨匠でありグラミー賞を獲得しているチャーリー・ヘイデンに師事・共演。こうして豪はアメリカで大学を卒業、大学院を修了し、音楽教育のフォーマルトレーニングを終えた。

2004年、彼はオリジナルの作曲、さまざまな編曲、即興曲等の演奏を深めるため **Sharp Three** を結成。このトリオは西洋と東洋の音とリズム、プログレ的ジャズかつクラシックの雰囲気溶け込んでいるスーパー・インスト・バンド。短く言えば、「**Creative Global Soundscapes**」という新鮮なジャンル。Sharp Threeのアルバムは、ジャズ・フォーク・プログレ・クラシック・アコースティックなどの世界中の評論家やマガジンより注目を集め、また **Guitar Player Magazine (USA)**にも掲載。

2005年頃より、ギターの変則チューニングや非常識テクニックの研究を開始。さらに、長い歴史のあるフラメンコに10年以上も興味を持ち続けた豪は「ブレリア」(12/8という変拍子を保つこのスタイルは、フラメンコの最強。パコ・デ・ルシアなどにより世界的になりつつある)をレパートリーに加えることに成功。



着実に「**Solo Guitar Xtreme**」として注目されてきている豪。彼の特筆すべき強みのひとつは、ギター1本豪1人にもかかわらず、メロディー・ドラム・ベース・DJ・琴も入ったフルバンドを思わせる演奏。ステージ上であろうとリハーサルルームであろうとレコーディングであろうと同じ。

豪はギタリストそしてミュージシャンとして独自の世界をみざし続ける。それは彼がワシントン大学時代に決心した原点 — きれいな音を創ること — をめざす旅。



常時コンサートやセミナーを、国際音楽祭・大学・クラブ・リサイタルホール等で行っている豪は、いままでにアメリカ合衆国・カナダ・フランス・大韓民国・メキシコ・台湾そして日本を訪ねている。このほか、ミロスラヴ・タデッチ(The Grande Mothers Reinvented, David Torn, Dusan Bogdanovic など)、山田正樹(Loudness, Firesign, EZO など)、ケリー・アリー(Linkin'Park, Bootsy Collins, Marilyn Manson など)、ジョン・バルガモ(Frank Zappa's Abnuceals Emukka Orchestra, John McLaughlin's Shakti, Hands On'Semble など)、トマス・リーブなどとコラボや共演を行ってきている。

“豪はクラシックとフラメンコにフォークとロックを加え、さらにアジアの音がみごとに溶け込んだ音楽の和魂洋才!” ---Kirk Albrecht (Minor7th.com)

“繊細かつ美しいメロディーから噛み付くような激しい爆発を操るダイナミックな豪. . . 常識は完全に砕かれる!” ---Dave Edwards (Live Music Alliance)

“ギタリスト豪はナイロンのフラメンコから、マハヴィシユヌ・オーケストラのようなエレキまでも含めたすばらしい演奏を披露した。全く異なる二つの演奏を一つにまとめる恐ろしいほどのコンサート!” ---Kirk Silsbee (Downbeat Magazine)

“豪はマルチ・ジャンルを制覇したみごとなプレイヤー!” ---Michael Connolly (Empty Sea Studios)

“こいつはやばい. . . 豪の演奏は見逃せない。” ---Jack Miller (Antelope Valley Guitar Society)

“ギターが望んでいた弾かれかた. . . 豪はそれを見つけた!” ---Cheri (ファンからのメール)

“完全な勝利!” ---Brett Callwood (Acoustic Magazine)

“幅広い音楽、オーケストラのようなユニークな演奏法、非常に深く色鮮やか. . . 豪の Sharp Three は近代のトリオのトップにたつすばらしいバンド!” ---John Coia (Drum.com)

“みごとなCD!” ---Barry Cleveland (Guitar Player Magazine)